資料7

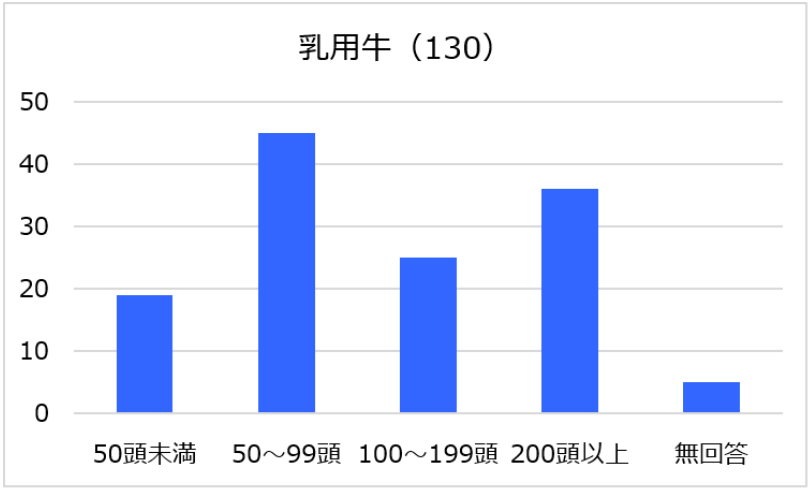
スマート畜産技術の導入状況に関する生産者アンケート結果

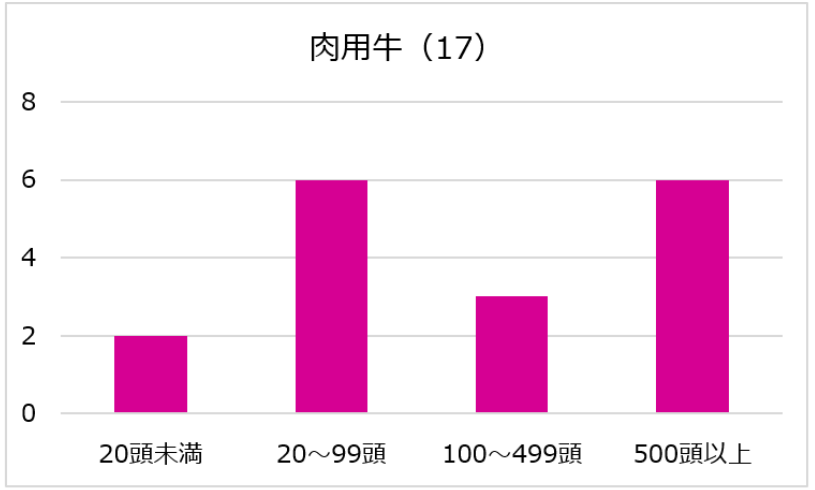
農林水産省　畜産振興課

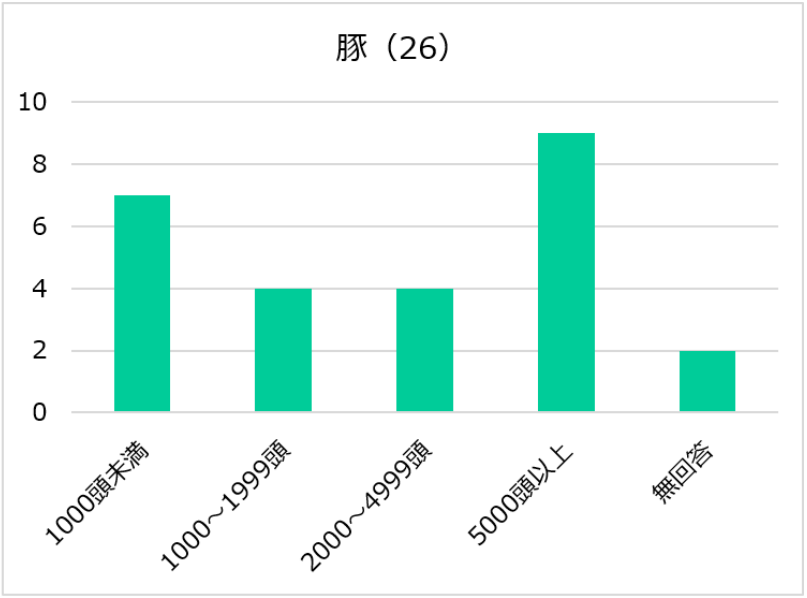
調査概要

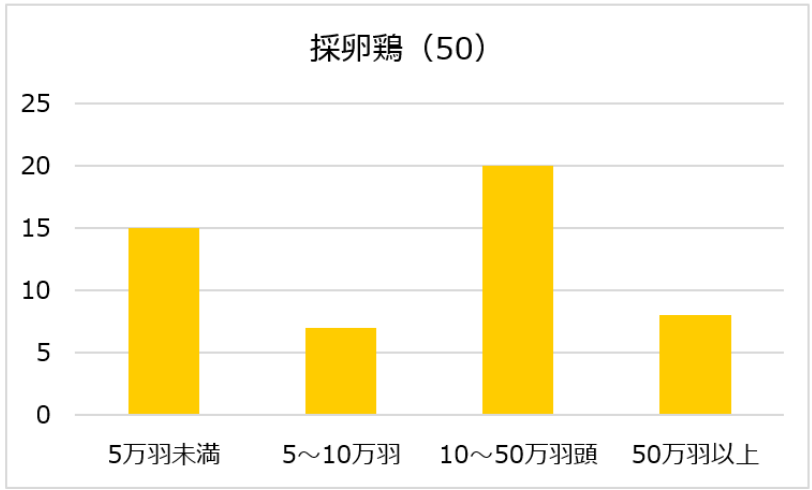
- **実施期間**：2026年６月５日～７月16日
- **実施方法**：Microsoft FormsによるwebアンケートⅠ
  生産者団体等を通じて依頼
- **総回答数**：238件

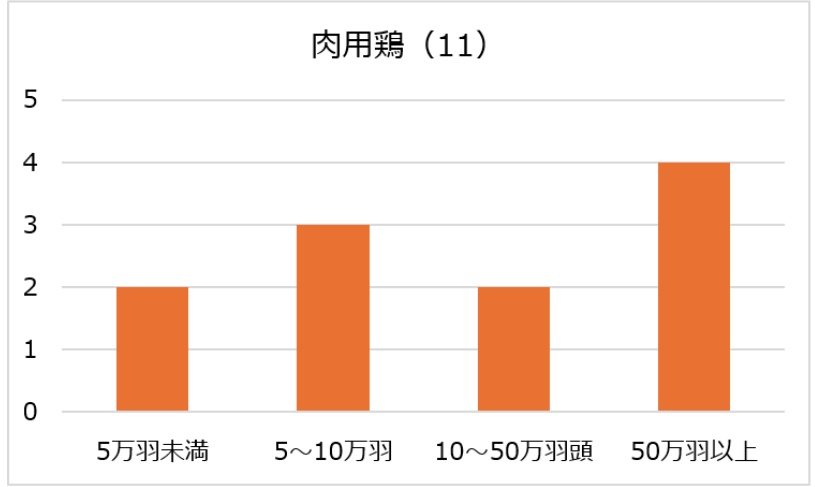
畜種ごとの経営形態と飼養規模









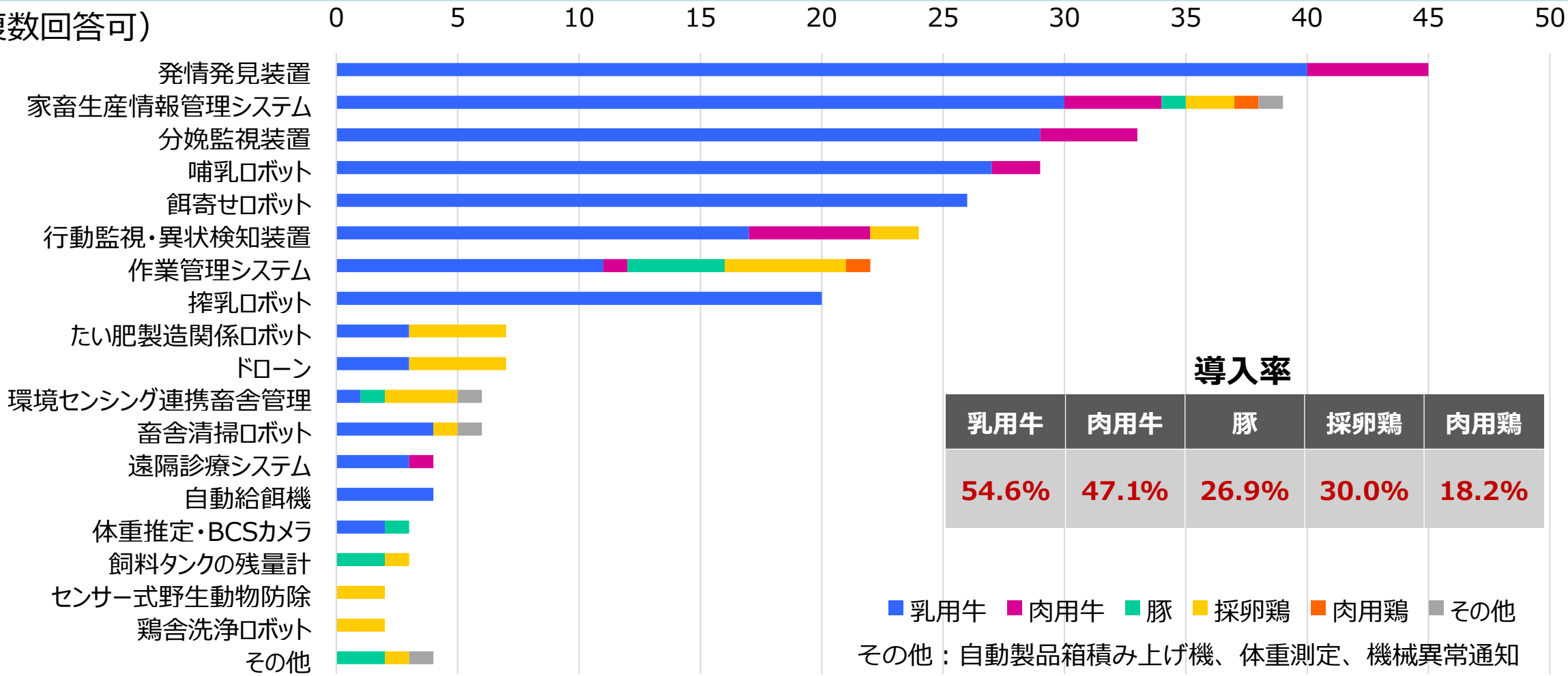


※牛の育成・預託専門経営２件及び複数畜種の複合経営２件は分類不可能のためグラフ上に含まない

- 酪農経営からの回答が最も多く（55%）、次いで採卵鶏（21%）、豚（11%）
- 小規模な家族経営から大規模な企業経営まで幅広く回答が得られた

これまでに導入したことのあるスマート機器等

（複数回答可）



導入率

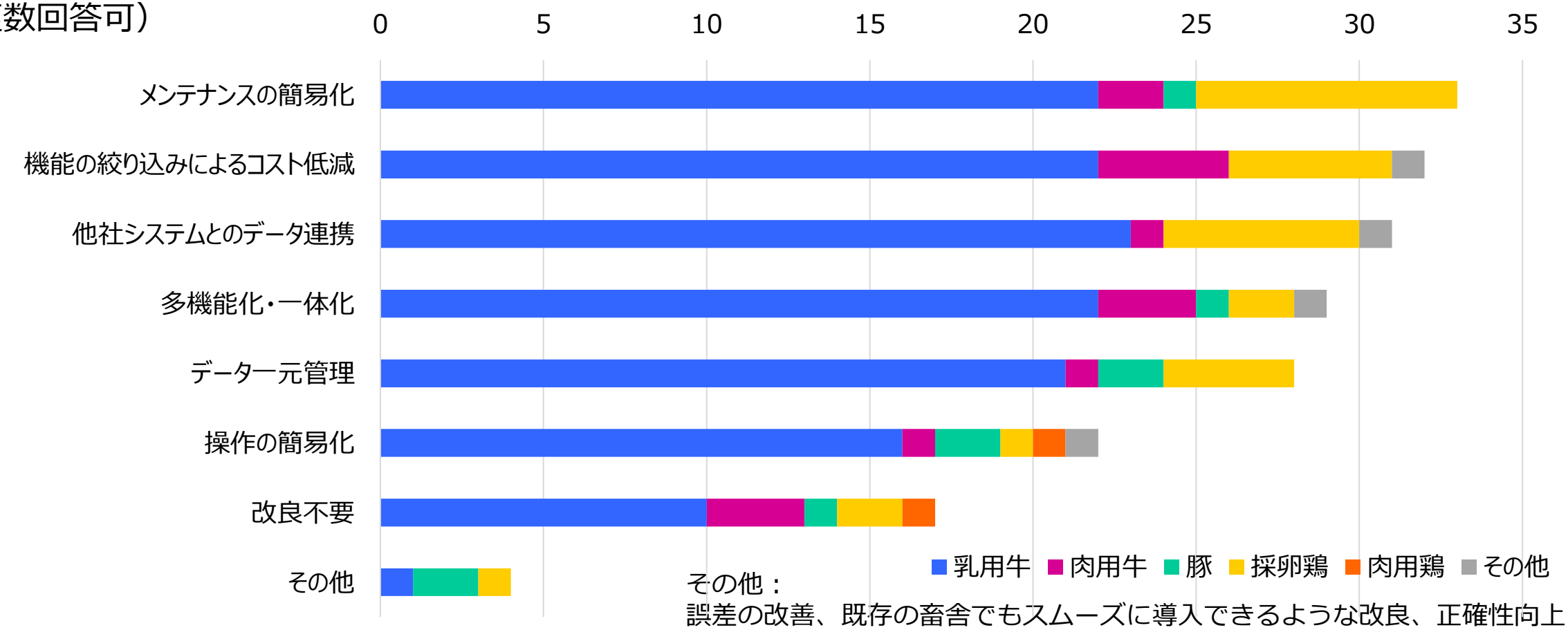
乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏
54.6%	47.1%	26.9%	30.0%	18.2%

その他：自動製品箱積み上げ機、体重測定、機械異常通知

- 家畜生産情報管理システム（牛群管理システム、養豚管理システム等）は各畜種で広く導入されていた
- 牛においては、繁殖・飼養管理を支援する機器・システムの導入実績が特に多かった
- 豚、鶏においては、作業管理システム（日誌機能等）が比較的広く導入されていたほか、鶏においては、畜舎管理システムやドローン等を用いた野生動物防除技術も導入されていた

導入している／したことのあるスマート機器等について
改良してほしい点

（複数回答可）

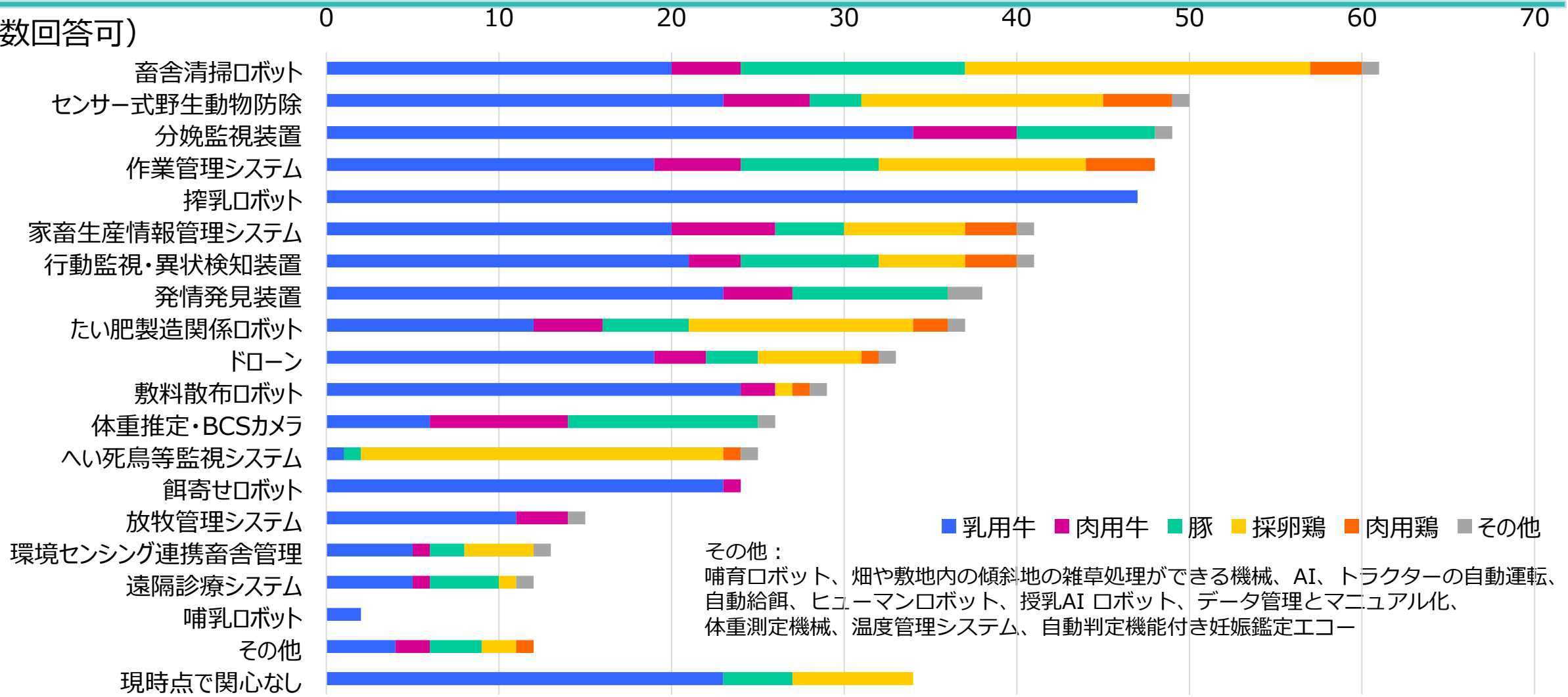


その他：
誤差の改善、既存の畜舎でもスムーズに導入できるような改良、正確性向上

- メンテナンスの簡易化、他システムとのデータ連携やデータ元管理などデータの効率化への要望が多かった
- 機能の絞り込みによるコスト低減の要望がある一方で、多機能化への要望もあった

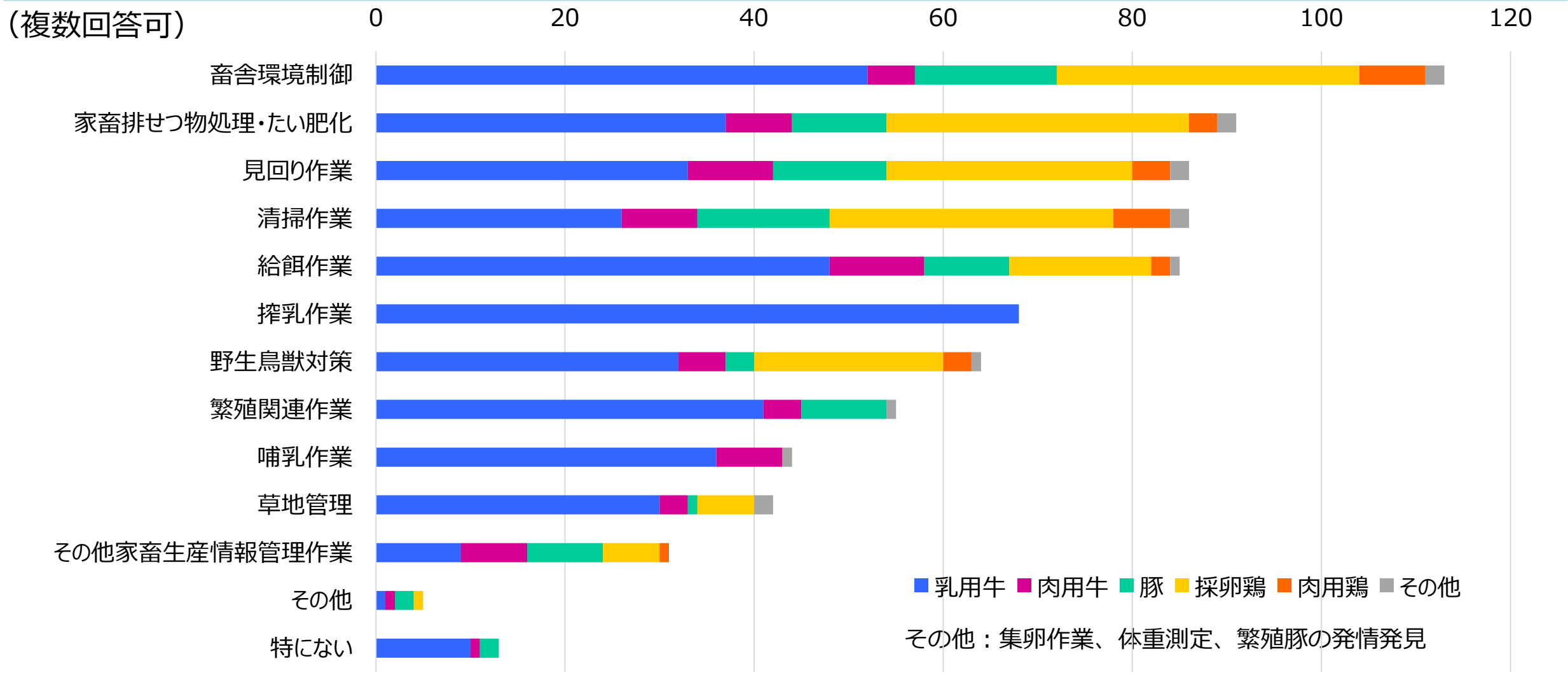
今後導入したい／関心があるスマート機器等

（複数回答可）



- 搾乳ロボット等の畜種限定的な技術を除き、いずれの畜種においても、省力化、繁殖管理、野生鳥獣対策等の多様なスマート技術に対するニーズが確認された
- 特に、清掃ロボット、センサー式野生動物防除、分娩監視装置、作業管理システムへの関心が高かった

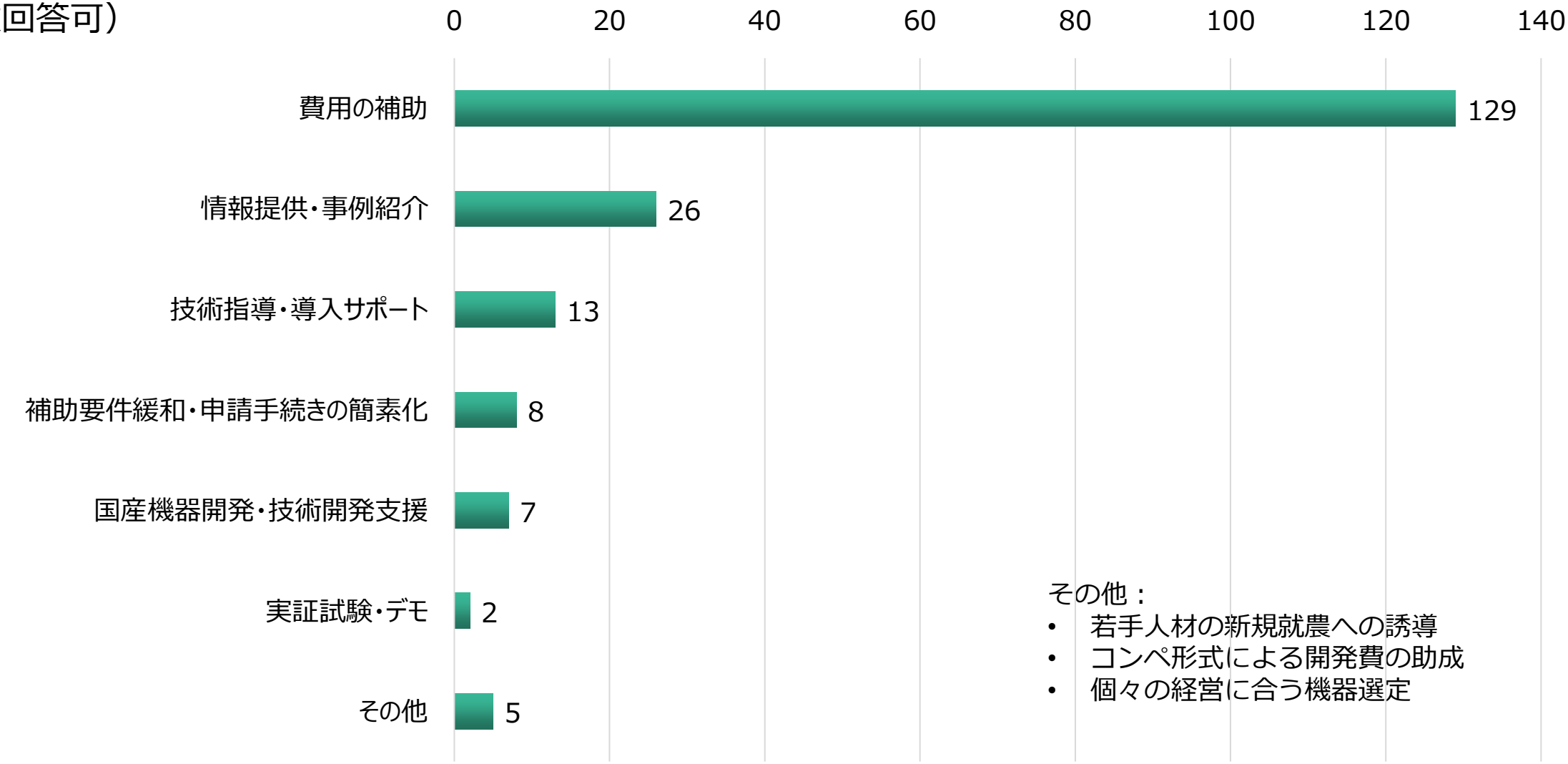
スマート機器等により省力化／高度化したい作業



- 畜舎環境制御、家畜排せつ物処理、見回り作業、清掃作業等、日常的かつ負担の大きい管理作業へのニーズが高かった
- 野生鳥獣対策についても畜種を問わず一定の要望があった

行政からどのような支援があると導入が進むと思うか

（複数回答可）



その他：
- 若手人材の新規就農への誘導
- コンペ形式による開発費の助成
- 個々の経営に合う機器選定

- 導入費用に対する補助への要望が最も多かった
- 情報提供・事例紹介や技術指導・導入サポートへの要望も確認された

まとめ

- ☑スマート畜産技術の導入は、特に**乳用牛において進んでいる**
- ☑導入されているスマート畜産技術には、家畜生産情報管理システムなど畜種を問わず普及しているものもあるが、牛は繁殖・飼養管理、鶏は環境制御や野生動物防除等、**畜種毎に異なる傾向**も見られた
- ☑今後の導入意向は幅広い分野に及んでいるが、畜種を問わず、**日常的かつ負担の大きい清掃作業等の管理作業の省力化・高度化に対するニーズ**が確認された
- ☑既存技術についても、**メンテナンスの簡易化、コスト低減、データ連携等の改良**が望まれている
- ☑行政には、**導入費用への支援**とともに、**活用事例に関する情報提供**が期待されている